JCDA 2022.10.15
ロープレライブ ふり返り
シーズン6(6)

氏名 マルチャン

内田 絵美さん(42)
短大卒
夫(45)、長女(12)と3人暮らし
現在は専業主婦

設問

[問い1] 今だったらどのような質問ができるのか?

(1) 娘さんが中学に上がるタイミングでもともと考えられていたんですね。もともと考えていたというのは?
(2) 14年たって、ずーっと思ってご主人に話してみたら変わってないんだなって。それは内田さんはどう思いますか?
(3) 専業主婦だと社会との接点がないと感じるんですね。内田さんにとって社会との接点とはどのような事ですか?
(4) ご主人に働かなくて良いと言われて、当時はうれしかったんですね。現在はお気持ちの変化があるのですか?
(5) 今から新しいことにチャレンジできるのかと冒頭でお話しがありましたが、新しいことにチャレンジできるのかというのは?
(6) 当時は専業主婦になりたかったというお話がありましたが、実際専業主婦やってみてどうでしたか?

[問い2]

良かった点

~~事例Iの CCt10~~ (相応しい・相応しくない)

理由:CLの14年間専業主婦で社会との接点がなくさみしいというお気持ちやブランクがあり不安というお気持ちに向き合い、最後まで、好意的感心を持ってお話を傾聴する事ができた点。

悪かった点

~~事例IIの CCt11~~ (相応しい・相応しくない)

理由:CLから「さっきも言いましたが」と何度かくり返しになってしまう問いかけをしてしまい、会話が堂々巡りになってしまった結果、CLが話したい、聞いてほしい、と思っている事を十分お話しいただけなかった点。

[問い3] 主訴

CLは結婚を期に、当時8年務めていた銀行を退職し、以降14年間、専業主婦として生活してきた。長女が中学生になるタイミングで働く事を考えてみているが、長いブランクがあり不安に思っている。そこからお話を聞いていくと、もともと仕事に対して、どうしたいという欲求は特になく、14年間専業主婦でいたことで社会との接点がなくさみしい気持ちや、働かなくて良いというご主人との関係性の中に不安の原因がある様に感じた。仕事がしたいわけではないが、社会との接点のために働く事を考え、不安に対する自己理解不足が現時点の主訴。

[問い4] この後のすすめ方

この後は、14年間専業主婦として家庭を守ってきたCLを労いながら、それまでの思いについて傾聴し、引き続き信頼関係を築いていく。そして長女が中学生になるタイミングで社会との接点を持つために何かしなくてはと思っている感情を問いかけを通して深堀りし、CLが求める社会との接点とはどの様な事なのか言語化してもらう。また自分に合った仕事が見付けられるかどうかに対する不安や、新しいことへのチャレンジに対するCLの思いを伺い、キャリアプランシートの作成を提案する。自分の興味や強み、これから取り組む事等を書き出す事で、整理して考えていただき、CLにとって中長期的なライフキャリアプランを考えた最良な意志決定ができる様に支援する。